

会員の声

三菱油化産資（株）

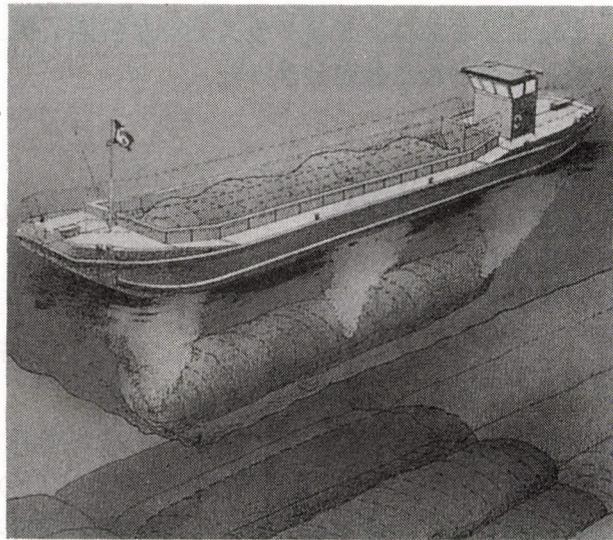
新谷 秀人

私は、テンサー、ゴビマット等ジオテキスタイルメーカーに勤めるものとして、多くの方々からジオテキスタイルに関心をいただき感謝しております。私どもが取り組み始めました十数年前は、ジオテキスタイルが学会、大学、公的研究機関で取り上げられることがほとんどない状況であり、昨今の大きな技術の進展、環境変化を感じております。

私どもの会社ではオランダのニコロン社と技術提携しておりますので、この機会にその技術を紹介させていただきます。同国はご存知の様に干拓技術に百年以上の歴史を持ち、ジオテキスタイルに関しても早い時期から技術開発が始まっています。ニコロン社は1950年代から干拓工事に関連したジオテキスタイル分野の技術開発を開始し、有名なアイセル湖の締切堤防工事、デルタ計画等の超大型工事を通じ、多くのユニークな技術を開発しています。現在ではニコロン社はテンカートグループの一員となり、アメリカにも進出し世界的ジオテキスタイルメーカーとして事業展開をしています。

当社は、初期にゴビ社（後にニコロン社と合併）で開発されたゴビマット工法を技術導入し国内生産、販売をしております。これは、ポリエステル高強度繊維で補強した不織布とコンクリートブロックを一体化し約 10m^2 、 $140\text{kg}/\text{m}^2$ の1枚のマットとしたもので、河川、水路等の法面保護向けに多くの実績を有しています。重機で施工できるため施工性が良く、開口部に客土すれば緑化が可能です。オランダではアイセル湖（現在のゾイデル海）の締切堤防道路の中央排水部に数十kmにわたり敷設されています。この堤防はオランダの観光名所になっていますのでオランダに行かれる方は是非道路中央のブロックを見ていただきたいと思います。

ニコロン社が最近開発し、国内でその技術を改良、適用しようとしているのが、ジオコンテナ工法です。この工法は高強度ジオテキスタイルで作った数百立米の超大型の袋に砂等の中詰材を詰めて水中に沈め、水中構造物を作る工法です。オランダではロッテルダム港の浸食部分の補修に大規模に使われた実績があります。袋詰めにより汚濁の拡散が防止されますので、中詰材として建設残土、ヘドロ等が利用できないか、国内でも現在検討中です。



当社ではこの様に技術導入した工法を日本市場に合わせて商品改良を行い市場開発に努めています。

ジオコンテナ工法